

平成 20 年度行橋支部現場見学会の報告

行橋支部 永田寛和

行橋支部では、9 月 25 日に曾根行橋線道路新設工事の現場見学会を行い、県及び市町村会員総勢 21 名の参加となりました。

研修会は、行橋土木事務所で事業の説明を行い、工事現場に移り現場視察を行う工程で進められました。研修会の時間は 14:00～15:30 と 1 時間 30 分と短くスムーズな進行を要求されるものであり、事業説明及び現場視察の時間配分に苦慮したところです。

事業説明においては、大きく 2 点に分け説明することで現場視察時の説明に対する最低限の事前知識を持つことと現地説明の時間短縮を図りました。本事業において、特殊工法を採用した初めての施工であり、現場技術者と設計技術者との相互で綿密な打合せを行いながら進められています。その中には、隣接する住宅（約数十cm程度）への配慮から H 型 PC 杭を用いたトンネルを採用し、ほぼ無振動による施工を可能にさせています。振動や騒音に対して常に計測し、工事損失等に配慮していました。H 型 PC 杭の特徴として、無振動・低騒音があり、専用の打ち込み機械を用いて作業が進められます。この工法は、打ち込みと掘削（H 型 PC 杭の内部を専用オーガで掘削）を同時に行うため、H 型 PC 杭の自重で打ち込まれていく（沈下していく）ようになります。そのため、無振動であり、高精度で施工できるのも利点の一つです。

現地視察においては、上記の説明を含むとともに仮設 H 型鋼杭の無振動引抜き施工状況を見学しました。この無振動引抜きは、小型の油圧式引抜き機を使用した工法で、当初は一部埋設とした仮設 H 型鋼杭を全撤去するために採用したものです。通常の鋼矢板油圧圧入引抜き機に比べ引抜きの力が強く、その力は H 型鋼が破損する程です。又、H 型鋼杭は、仮設支持杭として利用するため、端部にセメントペーストを使用し断面を大きくしていました。そのため、引抜きの際に大きな反力として作用し通常の工法では引き抜けない結果となっていました。しかし、この工法を採用することで全撤去することができるため、コスト削減の観点から数千万円の削減に繋がったそうです。

今回は、パワーポイントによる事前説明を行ったことで、事業概要、採用した工法の特徴や注意点が理解しやすかったと思われます。又、説明に動画形式の資料を含めることでより良く、現地視察時にはスムーズな視察ができました。

以上、平成 20 年度行橋支部研修会の報告でした。忙しい中、現場で講師として参加して頂いた三井住友・ピーエス三菱 JV の方、どうもありがとうございました。

事業概要の説明



現場視察

